船の科学館「海の学びミュージアムサポート事業」

令和７年度『全国「海の学び」フォーラム』

＜実施報告書＞

（公財）日本海事科学振興財団

＜実施概要＞

1. **事業名**　　令和７年度『全国「海の学び」フォーラム』

2. **開催趣旨・目的**

　日本海事科学振興財団（以下、「当財団」）では、全国博物館を対象とした様々な活動を通じて海洋教育の推進を行っている。また、これまで構築してきたネットワークを活用し、更なる海洋教育の発展に向け、社会教育分野からの海洋教育実践・推進を目的とした活動を展開している。

　本会議は、海の学びの推進パートナーである「海の学びコーディネーター（CN）」及び海洋教育推進に携わる様々な関係者を一堂に会し、我が国における今後の更なる海洋教育の推進を目的とした全国「海の学び」フォーラムを開催することで、当財団を中心とした社会教育分野からのオールジャパンでのさらなる海洋教育推進体制の構築を目指す。

3. **開催期間**　　令和８年３月 25 日(水)、26 日(木)、27 日(金)【3 日間】

4. **開催場所**　　笹川平和財団 海洋政策研究所　11 階　国際会議場
（東京都港区虎ノ門１丁目 15-16）

5. **主　　催**　　(公財)日本海事科学振興財団

6. **助　　成**　　（公財）日本財団

7. **後　　援**　　内閣府総合海洋政策推進事務局、文部科学省、水産庁、国土交通省、環境省、(公財)日本博物館協会、(公社)日本動物園水族館協会、(一社)日本水族館協会、国立研究開発法人海洋研究開発機構、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構　国立極地研究所、(公財)笹川平和財団海洋政策研究所、(一社)3710Lab、海と博物館研究所【順不同】

8. **参加者**　合計 136 名

（1）参加者　　計 85 名（現地参加：69 名、オンライン参加：16 名）

（2）オブザーバー　　計 51 名（現地参加：45 名、オンライン参加：6 名）

内閣府　総合海洋政策推進事務局
文部科学省
水産庁
国土交通省
環境省
(公財)日本博物館協会
(公社)日本動物園水族館協会
(一社)日本水族館協会

国立研究開発法人海洋研究開発機構
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構　国立極地研究所
(公財)笹川平和財団海洋政策研究所
(一社)3710Lab
海と博物館研究所
日置光久（日本シェアリングネイチャー協会）
当財団理事・評議員・監事
※順不同

9. 会議概要

(1)日　　時　　令和８年３月 25 日（水）13:00～18:00(18:10～情報交換会)
令和８年３月 26 日（木）　9:30～17:50
令和８年３月 27 日（金）　9:00～15:10

(2)会　　場　　笹川平和財団 海洋政策研究所　11 階　国際会議場

10. 実施内容

【1 日目】3 月 25 日（水）13：00～18：00

(1)開会（主催者挨拶、後援団体・オブザーバー参加団体等紹介）

(2)プログラム１　事務局説明

①参加者紹介
②タイムテーブル案内
③開催趣旨説明、これまでの振り返り
④「CN 交流ひろば（Discord)」の紹介
⑤会場内「各館成果物展示コーナー」紹介

(3)プログラム２　基調講演

講演１:「第４期海洋基本計画における海洋人材の育成・確保と国民の理解の増進について」
・内閣府総合海洋政策推進事務局　参事官　金子忠利氏

講演２:「文部科学省における海洋教育に関する主な取組」
・文部科学省海洋地球課　課長　三宅隆悟氏

講演３:「海洋教育・人材育成に関する水産庁の取組」
・水産庁漁政部企画課　企画班　企画係長　小山藍氏

講演４:「海洋教育に関する国土交通省の取り組み」
・国土交通省　海事局総務課　海洋教育・海事振興企画室 室長　野村秀氏

講演５:「水辺の環境活動プラットフォームによる関係者ネットワークの推進～海洋教育実践者との連携に向けて～」
・環境省 水・大気環境局 環境管理課 環境創造室 室長 森川政人氏

(4)プログラム３　班別グループワーク

・班別グループワーク
・班別発表、議論

(5)記念撮影
(6)情報交換会

【2 日目】3 月 26 日（木）9：30～17：50
(7)プログラム 4　海の学び実践事例発表・情報提供
事例発表 1：前回「フォーラム」を起点とした取り組み状況について
・船の科学館　梶谷東輝
事例発表 2：海の遊び事例の紹介＆人材育成研修内容案の紹介①
高知県柏島　島が丸ごとミュージアム　体験からその先にある実感へ
・NPO 法人黒潮実感センター　理事長　神田優氏
事例発表 3：海の遊び事例の紹介＆人材育成研修内容案の紹介②
チリメンモンスター発祥の地　岸和田の「海の学び」とチリモン仲間づくり
・きしわだ自然資料館　学芸員　風間美穂氏
事例発表 4：過去支援成果物を活用した巡回展の実施事例
・海とくらしの史料館　館長　大池明氏
情報提供 5：ウェブサイト「MOON：海をつなぐミュージアム」の紹介と展開案
・3710Lab 田口康大氏
事例発表 6：海洋教育パイオニアスクールプログラム事業を通じた学校現場における海洋教育推進―これまでとこれからについて―
・笹川平和財団海洋政策研究所　嵩倉美帆氏
事例発表 7：学校現場での海の学び実践事例紹介
「わくわくふるさと海峡学」～地域を巻き込んだ地域学習の事例～
・下関市立養治小学校　校長 舩木美弘氏

(8)プログラム 5　班別ワークショップ
・班別ワークショップ【各班ワークシート成果は別添参照】
・班別発表、議論

【3 日目】3 月 27 日（金）9：00～15：10
(9)プログラム 6　班別ワークショップ（8 グループ）
テーマを『「海洋リテラシーの普及・向上」、「人材育成」、「従事者増」、「海との共存・共生社会」等の実現化に向けた「課題・手段・システム・好事例」等の検討案作り』として設定し、各班毎にディスカッションを行い意見をまとめ上げる時間とした。

(10)プログラム 7　各グループからのまとめ発表
1 グループ 10 分程度の発表時間を設け、8 グループ毎に各班ならではの切り口から海洋教育の推進に向けた課題の整理や事業案の検討を行い、まとめ成果として発表・提案頂いた。【各班ワークシート成果は別添参照】

(11)各班発表内容のまとめ（東京大学海洋教育センター／3710Lab 田口康大）

各班グループ発表内容のまとめとして、東京大学海洋教育センター／3710Lab　田口氏よりまとめ・講評を頂いた。

(12)総括（海と博物館研究所　高田浩二）

3 日間にわたり開催されたフォーラム全体のまとめとして、海と博物館研究所　高田氏より総括を頂いた。

(13)大会決議

本フォーラムで議論された内容や発表内容等の成果を大会決議としてまとめた。【別添参照】

(14)閉会

閉会に際して、主催者である当財団理事長の吉田より閉会の挨拶を行った。

11. 開催状況

【1 日目】

会場の様子

後援団体・オブザーバー参加者等

事務局挨拶

主催者挨拶（当財団会長　前田）

講演１（内閣府）

講演２（文部科学省）

講演３（水産庁）

講演４（国土交通省）

講演５（環境省）

成果物展示（路上博物館）

成果物展示(ふなばし三番瀬環境学習館)

成果物展示（国立極地研究所）

成果物展示（浅虫水族館）

班別グループワーク

班別グループワーク

班別発表・議論

班別発表・議論

まとめ・講評

まとめ・講評

情報交換会の様子

情報交換会の様子

【２日目】

事例発表１（船の科学館）

事例発表２（黒潮実感センター）

事例発表３（きしわだ自然資料館）

事例発表４（海とくらしの史料館）

情報提供５（3710Lab）

事例発表６（海洋政策研究所）

事例発表７（下関市立養治小学校）

事例発表７・質疑

班別ワークショップ

班別ワークショップ

班別発表・議論

班別発表・議論

まとめ・講評

まとめ・講評

【３日目】

班別グループワーク

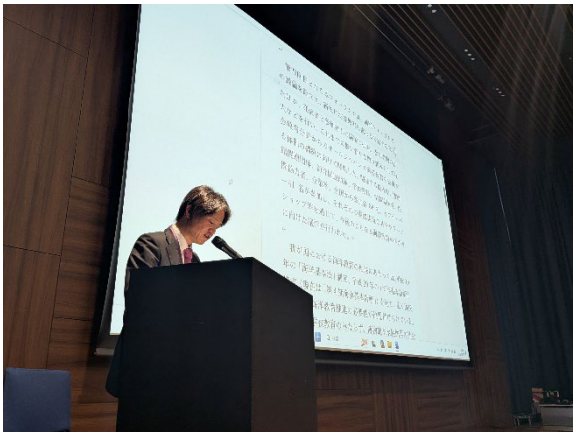
班別グループワーク

班別まとめ発表

班別まとめ発表

各班発表内容まとめ（田口氏）

総括（高田氏）



大会決議

大会決議

閉会挨拶（理事長　吉田）

閉会

12. 総評

今回開催した令和７年度『全国「海の学び」フォーラム』は、当財団が行う「海の学びミュージアムサポート事業」における事業推進パートナー「海の学びコーディネーター（CN）」及びその候補者を中心に、地域における博物館の協力者や学校教員、学識関係者などの全国各地で海洋教育の実践を担う方々を幅広く招聘し、当財団との協働による社会教育分野からの垣根を越えたオールジャパンでの海洋教育推進体制の構築と、さらなる展開・広がり作りを議論する場として開催した。

過去３回にわたって本フォーラム趣旨に即した会議体を開催してきたが、今回の第４回フォーラムでは、これまでの議論や要望を基に海洋教育推進に関連する２省庁を新たに招くなどオブザーバー団体を拡充すると共に、開催期間を３日間に拡大することで議論をより深められるよう改善を図り開催した。

初日には内閣府、文部科学省、水産庁、国土交通省、環境省の５府省庁が行う取組や施策についての基調講演を頂くと共に、講演内容に関する班別グループワークと議論・発表を通じて、政府施策を念頭に置いた海洋教育推進に向けての協議が行われ、多様なコンテンツの整理・集約の必要性や、さらなる施策の必要性、横ぐしを刺した連携体制の重要性などが議論された。

２日目には現場レベルでの７つの実践事例発表・情報提供を通じて、前回議論成果であった無関心層向けの取り組みや事業の継続展開について、学校現場や博物館現場での実践事例発表や WEB を活用した新たな取組などについての情報提供が行われた。その後は班別ワークショップにて発表内容を基にした今後の展開案作りや課題整理などが行われ、博学連携推進に向けた具体的な提案や、相互理解をする場の必要性、効果的な情報発信の重要性など、今後の海洋教育推進に向けた様々なアイディアや課題が挙げられた。

最終日の３日目には、これまでの基調講演や事例発表・情報提供内容と、各班議論の総まとめとしての班別グループワークを行い、『「海洋リテラシーの普及・向上」、「人材育成」、「従事者増」、「海との共存・共生社会」等の実現化に向けた「課題・手段・システム・好事例」等の検討案作り』をテーマとした議論が行われた。その結果、各グループからは具体的な取り組み内容の提案や、有機的・継続的な連携に向けた課題の整理、

事務局への要望など幅広い議論がされ、各班ごとに成果発表が行われた。その後は田口氏より各班発表のまとめを頂き、ミュージアムと学校・地域とをつなぐための人材や場の必要性や役割整理の必要性、無関心層への巻き込み、モデルケースやケーススタディの必要性などの議論が多くの班から挙げられたことから、改めて教育の位置付けや海との向き合い方について整理を行う重要性が挙げられた。さらに高田氏からは本フォーラムの総括として、地域の様々な教育資源の活用や地域貢献の必要性や、互いのハッピー探しを通じた連携推進について、今後は各セクター間に「垣根」という言葉がなくなることが望ましいなどの指摘があった。

４回目となる本フォーラムでは、前回規模を上回る様々な分野から 130 名を超える参加者・オブザーバーを交えた多岐にわたる議論の場とすることが出来たほか、これまでの議論成果を引き継いだ具体的な事業推進について議論を進めることができ、我が国全体における海洋教育推進の分野横断的な枠組みや現状・課題・今後を幅広く扱うとともに、社会教育・学校教育分野からの海洋教育推進体制構築と実践の場になったと思われる。さらに本フォーラムでの議論の成果を「大会決議」としてまとめ、今後のオールジャパンでの海洋教育推進に向けた一つの指針と位置付けた。

今後は本フォーラムを継続・拡大して実施するほか、フォーラムで得られた成果を着実に実現していくための取り組みの推進に向けて、海洋教育推進に関わる幅広いセクターとのさらなる推進体制の構築と強化を行い、海洋教育の実践と推進に携わる関係各セクター同士の連携を推進し、当財団を中心としたオールジャパンでの海洋教育推進に向けた取り組みを継続・拡大していくこととしたい。